

# 昭和6(1931)年刊行『長岡大観』 について

## Study on “Nagaoka Taikan” printed at 1931

平山 育男  
HIRAYAMA Ikuo

キーワード: 鳥瞰図、長岡市、博覧会、上越線

Keywords : birds-eye view, Nagaoka city, exhibition, Jyoetu line

### 1 はじめに

これまで長岡市周辺における鳥瞰図について幾つかの論考をまとめている。今回は昭和6(1931)年に長岡市の主催で開催された上越線全通記念博覧会に併せて上越線全通記念博覧会と同協賛会が発行した鳥瞰図『長岡大観』について紹介し、描写内容等を考察することを目的とするものである。なお、本年は清水トンネル貫通及び上越線全通から80年となる。

### 2 『長岡大観』について

#### ・概要

『長岡大観』は二つ折りの表紙と8折りの折込みからなるもので、表紙、折込みとも両面に印刷がなされている。

表紙は、表面と裏面、折込みも表面と裏面を原寸大で示した。なお、折込みの鳥瞰図については後述のように、後述するように幅96mm程で8分割して折られているため、向って左から「A」「B」「C」「D」「E」「F」「G」「H」、上下に2等分して上から「1」「2」と区画し、文字情報の位置を記す手立てとした。このため、以下では具体的な地名などの位置をこの記号を用いて□囲み、適宜示すこととする。

#### ・『長岡大観』の大きさと体裁

表紙の大きさは横246mm、縦196mmの厚紙である。表紙表面は縦に2分した山折で、広げた時の向って左側を表紙、右側を裏表紙とする。鳥瞰図は、表紙裏面の向って左側端に折込みとして添付され、表紙裏面内部に折り込まれる形式となる。表紙表は赤、黄、緑、黒を用いたカラー印刷とする。表紙裏は黒、赤、水色の3色、裏表紙裏は黒色の単色刷りとする。

折込みの全体の大きさは横772mm、縦177mmである。鳥瞰図の印刷される表側で見ると、96mm程向って左側から順に山折り、山折り、谷折り、谷折り、山折り、谷折り、谷折り、谷折りとして、折込み裏面を表紙裏面への、のりしろの4mmとする。折込み表面はカラー印刷で、折込み裏面は表紙裏面と同様の印刷とする。

#### ・内容

表紙表面は全体の背景を鶯色とし、向って左側となる表紙側では上部に向って右から題字として「長岡大観」、向って左側に上から「忠篤題」として、落款が3点押される。この下に「長生橋四百八十間 正道画(落款)」とする長生橋と長岡の町並みが二重の枠内に描かれる。そして表紙から裏表紙にかけては兜、

裏表紙には、一部表紙にかけて博覧会を記念して造られた新作長唄「新曲 長岡の栄」の歌詞が台本を広げながらに記される。記載される歌詞は以下の通りである(／は改行、以下同様)。

新曲 長岡の栄<sup>1</sup>

へ白妙の雪より雪に／明暮て、年の半はを／冬寒み、越路の春ハ／遅けれど、緑いや増す／常磐木の、操は変／へぬ三葉柏、契り久／しき長岡の栄え／ことほぐ舞の手や、／悠久山の桜狩

表紙裏面は、「上越線交通図」で、東京-高崎-長岡-新潟間の鉄路他、関東甲信越、福島各県が描かれる。凡例が付され、上越線、省線、私鉄線の鉄路が描き分けられる。そして、向って左下に右から「凸版印刷株式会社印刷」と水色で記される。なお、裏表紙は折込みの連続となるので、後述することとする。

折込みは表面が鳥瞰図となる。H1部分向って右上部分に、赤地に黒文字で「長岡市大観図」と縦書きがあり、H2に「正ミち」と青地に白文字で縦書きされる。鳥瞰図は、横725mm×縦163mm黒枠内に描かれる。図では上越線全通記念博覧会場となった中島浄水場を中央に、東南東から鳥瞰するように描かれている。長岡の市街地がC1-2からF1-2の間に描かれ、画面下が東山、上部に信濃川、西山、そして日本海と佐渡が描かれる。また、画面向って左下A2に清水トンネルと東京、向って左の欄外に信越本線を描き、A1上に能登、欄外に至大阪とする。一方、画面向って右側は、上部に羽越線が伸び、H1青森、下部はG2守門山、H2阿賀野溪谷として、谷間を進む磐越西線は欄外に至郡山とされる。なお、日本海上をみると、F1寺泊、G1新潟からの佐渡行き船舶の他、F1朝鮮行、H1函館ヨリ、H1浦塩(ウラジオストック)行の汽船も見ることができる。鉄道は当時の省線が黒と赤の縞模様で、引込線を太赤線、私鉄線は長岡鉄道を太赤線、他を細赤線とする。折込に描かれる省線は高崎線及び信越本線がA2東京-A2高崎-A2欄外上田-A2欄外長野-A2欄外豊野-A1田口-A1関山-A1新井-A1高田-A1直江津-B1柏崎-B1来迎寺-C2宮内-D2長岡-G2城岡-G1見附-G1三条-G1東三条-G1加茂-H1新津-H1新潟、北陸本線はA1直江津-A1富山-A1欄外至大阪)、上越線はA2高崎-A2新前橋-A2土合信号所-A2土樽信号所-A2湯沢-A2石打-B2六日町-B2五日町-B2浦佐-B2小出-B2堀之内-B2川口-B2東小千谷-B2越後滝谷-C2宮内、越後線がB1柏崎-B1比角-C1刈羽-C1西山-D1石地-D1出雲崎-E1妙法寺-E1桐原-F1寺泊-F1大河津-G1地藏堂-G1西吉田-G1巻-G1白山、魚沼線がB1来迎寺-B2小千谷、飯山線がB2川口-B2十日町、弥彦線はG1弥彦-G1西吉田-G1燕-G1東三条-G2越後長沢、羽越線がH1新津-H1新発田-H1村上-H1青森、磐越西線がH1新津-H1五泉-H2栗嶽-H2至郡山、赤谷線がH1新発田-H1赤谷とする。私鉄線は、頸城鉄道がA1直江津-B1浦川原、飯山鉄道がB2十日町-A2欄外豊野<sup>2</sup>、長岡鉄道がB1来迎寺-C1西長岡-C1日越-C1上除-C1越後関原-D1王寺川-E1脇野町-E1榎原-F1上与板-F1与板-F1岩方-F1町軽井-F1大河津-F1寺泊、栃尾鉄道がD2悠久山駅-D2四郎丸駅-D2長岡-E2神田口-F2下長岡-G2上見付-H2栃尾、蒲原鉄道がG1加茂-H1五泉とする。町並みでは、長岡市内が特に詳細に描かれ、D1-E1博覧会会場の建物を中心に、D2長岡駅、D2公会堂、D2互尊文庫、D2警察署、D2商工会議所、D2市役所、C1裁判所、D2郵便局、D2電話局、E2取引所、D1六十九銀行、C2機関庫、D2高等工業学校、C2工業学校、F2高等女学校、F2女子師範学校、E2農事試験場、E2試験場原種圃、D2中学校、C2千手小学校、D1中島小学校、D1盲啞学校、D1表町小学校、D2実業女学校、D2四郎丸小学校、

[E2]神田小学校、[E1]川崎小学校、[F1]北越製紙会社、[F1]蔵王カーバイト工場、[G1]大河津分水堰などは建物輪郭や色まで描き分けられている。但し、主要な社寺である[D2]蒼紫神社、[D2]招魂社、[D1]平潟神社、[C2]千手観音、[E2]栄涼寺、[D2]昌福寺、[E2]万才閣、[F1]金峯神社、[G1]本成寺、[G2]石動神社、[G1]弥彦神社や[F1]第二会場水族館、[E1]天然瓦斯会社などは建物の輪郭は描かれるものの、壁面が赤で彩られている。

折込み裏面は上部4割程が主要施設の写真、下部6割程が文章で、「A」から「E」が「長岡市大観」、「E」から「G」が「近郊名勝」、「G」から「H」が「名物」、「H」に「俚謡」及び奥付となり、裏表紙裏が写真と表紙の説明となる。写真は、向って右より「大手通り(停車場通り)」、「市立公会堂」、「市立互尊文庫」、「県社 平潟神社」、「県社 蔵王金峰神社」、「信濃川より見たる工場地帯」、「千手観音(千蔵院)」、「表町通り積雪の景」、「長岡高等工業学校」、「悠久山公園スキー場(飛艇峰)」で、裏表紙裏は上から「長岡市役所」、「蒼紫神社(悠久山公園)」となる。解説は、「長岡市大観」としては「長岡城址」、「公会堂」、「宝田公園」、「大手通り」、「長岡市役所」、「赤十字病院」、「互尊文庫」、「郵便局」、「北越新報社」、「六十九銀行」、「表町通り」、「本町通り」、「長岡銀行」、「平潟神社」、「越佐新報社」、「千手の観音様」、「雪鳩」、「信濃川」、「長生橋」、「文治遊郭」、「上水道浄水場」、「博覧会」、「蔵王神社」、「北越製紙会社」、「北越水力電気会社蔵王工場」、「城岡駅」、「古戦場」、「萬歳閣」、「長岡中学」、「長岡高等工業学校」、「悠久山公園及蒼紫神社」が挙げられる。「近郊名勝」には「浦瀬石油地」、「大面天然ガス」、「大河津分水」、「良寛上人遺跡」、「弥彦神社」、「井栗村」、「田上繫樞」、「本成寺」、「浦佐毘沙門堂」、「栃尾又温泉」、「銀山平」、「二十村牛の角つき」、「名物」には「鮭」、「鮎」、「百合」、「ぜんまい」、「またゝび漬」、「味噌及味噌漬」、「越の雪」、「大手饅頭」、「ヨーラス鉛」、「唐木細工」、「スキー」、「木目人形」、「紬、シルクポーラ、変羽二重」、「俚謡」に長岡甚句が挙げられ、末尾に(星山貢)の名前が添えられる。なお、星山は、博覧会の出品宣伝部長理事勸業課長主事<sup>3</sup>を勤めた人物で、昭和5(1930)年3月に宣伝部長理事に就任後<sup>4</sup>、市長、助役に次ぐ実質的には事務方トップとしての立場で博覧会の準備・運営に当たった。ここに名前が挙げられるのは、本資料発行責任者としての意味合いが強いだろう。

奥付は、「複製厳禁」の語と、「昭和六年八月二十一日発行」とする発行日、「発行者 長岡市主催上越線全通記念博覧会 長岡市主催上越線全通記念博覧会協賛会」、「印刷所 新潟県長岡市長町一丁目一六九七 三盛館印刷所」、「印刷社 新潟県長岡市長町一丁目一六九七 山岸宇三郎」、「製版所 東京市下谷区二長町一(特許HB製版)凸版印刷株式会社」とする。ちなみに、発行日の昭和6(1931)年8月21日とは、上越線全通記念博覧会の開会日である。

裏表紙裏における表紙の説明は「表紙 長岡市……長生橋ヲ隔テ、東方ヲ望ム」、「兜……旧長岡城ハ兜形芋引城ト称ス」、「長岡ノ榮……博覧会新作長唄」、「題字 旧藩主子爵牧野忠篤閣下」とする。

### ・鳥瞰図『長岡市大観図』の構成

本鳥瞰図『長岡市大観図』においては、中央やや上部に[E1-F1]博覧会場を配し、東山上空を鳥瞰図の視点として、会場と長岡の町並みを俯瞰しており、長岡駅から会場付近までの市街地を克明に描き、加えて悠久山周辺の遊興施設を詳細に描いている。画面下部には越後山地から連なる東山の山々があり、画面向って左手中央からは信濃川が流れ、魚野川と合流後、画面上部を横切り向って右端上の[G1]新潟港にて日本海へ注ぐ。そして、画面上部には日本海を配し、向って左上から[A1]能登、[A1]親不知、[B1]米山、[F1]佐渡、[H1]笹川流、[H1]青森を記し、

更に[F1/G1]佐渡、[H1]函館、[F1]朝鮮、[H1]浦塩への航路を記すものである。

### ・鳥瞰図『長岡市大観図』における文字表記の方法

本鳥瞰図では文字は原則黒線で、[D2]長岡と[A2]東京が白線とする。囲み枠は鉄道駅名が長丸で、他は長方形、地はいずれも白抜きで長岡と東京のみ青地、枠線色は駅名が青線、他は赤線で、枠内の文字は縦書きとする。但し、航路名は水色地に白抜き文字、原則横書きとする。また、3カ所見られる河川名は、いずれも枠を設けず、河川下流から上流にむかって縦書きの黒文字で名称を記す。

つまり、鳥瞰図では原則として駅名と施設などの名称が区別され、駅名の中でも東京と長岡のみが一段と目立つような表記の方法が採られているという。

### 3 鳥瞰図『長岡市大観図』における記載内容の検討

#### ・鳥瞰図『長岡市大観図』に見る博覧会の建物

本鳥瞰図は、上越線全通記念博覧会を記念して発行されたものである。そのため本稿においては博覧会場の建物について考察を加えてみたい。

博覧会場では、第1会場となった長岡市分だけでも108件の建物・施設が設置された<sup>6</sup>。『長岡市大観図』ではこのうち30件程度の施設が描かれているのであるが、鳥瞰図の中でそれらの施設はどの程度の精度で描かれているのであろうか。以下では、正門から時計回りで施設名を挙げ、その検討を行って行きたい。

#### 1) 正門

会場南には木造掘立で屋根は鉄板葺、外部は全て白色漆喰塗とした正門が築かれた。出入口は3口あり、全体は凸型の立面で中央の一段高い門部分は市松格子組の模様が入り、その中央上に博覧会の六綾マーク、中央に「上越線全通記念博覧会場」の文字を掲げるものであった。また、中央入口両脇には丸窓、更に両袖に小型の丸窓3カ所が設けられた<sup>7</sup>。

鳥瞰図に全体として凸型の立面で描かれる形態は実際の形をよく伝えるが、入口は1カ所のみで、格子組やマーク、博覧会場の文字、丸窓などは一切示されない。

#### 2) 警官詰所

正門向って左となる西側には明治製菓の広告塔が立ち、警官詰所が配された<sup>8</sup>。

鳥瞰図においては白い塔が建つが、警官詰所を示すような建物は見られない。

#### 3) 郵便出張所 4) 鉄道案内所

正門を入ったすぐの向って左手には郵便出張所及び鉄道案内所が設置され、一棟の建物で入口は上部が駒形、外壁は卵色仕上であった<sup>9</sup>が、鳥瞰図にその記載はない。

#### 5) 長岡出品館

長岡出品館は正門際に設けられた。平面は建物全体が「く」の字型に屈曲し、外壁は卵色であった。中央入口は頂部が山形の3口で立面は凸形、中央の塔屋は壁面に3筋、上部が山形に尖った細長いガラス窓を設け、塔屋先端は階段状に四角錐、入口、塔屋縁はブロンズ色の立体模様とした<sup>10</sup>。

鳥瞰図で建物の平面は直線状で、塔屋部に横縞が入り、上部に四角錐型のすぼまりは見られない。

#### 6) 鉄道館

長岡出品館西側に鉄道館が設けられた。切妻造平入で壁面は白色、構成派風の建築であった<sup>11</sup>。建物正面となる東側には鉄塔のフラットライトが建ちここに「鉄道特設館」の看板が掲げられた。

鳥瞰図では鉄道館と考えられる建物は、長岡出品館とは通用門を挟んで建てられ、塔屋は白い壁体となっている。

表1 『長岡大観』における地名等の書込み

番号	位置	名称	種類	文字の色	枠の形と色
1	A 1	欄外 至大阪	国鉄駅	黒	○
2	A 1	能登	地名	黒	□
3	A 1	親不知	地名	黒	□
4	A 1	春日山	地名	黒	□
5	A 1	五智国分寺	寺院	黒	□
6	A 1	直江津	国鉄駅	黒	○
7	A 1	富山	国鉄駅	黒	○
8	A 1	越後アルプス	山岳	黒	□
9	A 1	妙高山	山岳	黒	□
10	A 1	高田	国鉄駅	黒	○
11	A 1	新井	国鉄駅	黒	○
12	A 1	赤倉温泉	地名	黒	□
13	A 1	関山	国鉄駅	黒	○
14	A 2	田口	国鉄駅	黒	○
15	A 2	欄外 豊野	国鉄駅	黒	○
16	A 2	苗場山	山岳	黒	□
17	A 2	七ツ釜滝	滝	黒	□
18	A 2	欄外 長野	国鉄駅	黒	○
19	A 2	石打	国鉄駅	黒	○
20	A 2	湯沢	国鉄駅	黒	○
21	A 2	土樽信号所	信号所	黒	○
22	A 2	清水トンネル	隧道	黒	□
23	A 2	土合信号所	信号所	黒	○
24	A 2	欄外 上田	国鉄駅	黒	○
25	A 2	新前橋	国鉄駅	黒	○
26	A 2	高崎	国鉄駅	黒	○
27	A 2	東京	国鉄駅	白	●
28	B 1	米山	山岳	黒	□
29	B 1	柏崎	国鉄駅	黒	○
30	B 1	比角	国鉄駅	黒	○
31	B 1	浦川原	国鉄駅	黒	○
32	B 1	松ノ山温泉	温泉	黒	□
33	B 1	来迎寺	国鉄 / 長岡鉄道駅	黒	○
34	B 2	信ノ川水力千手発電所	発電所	黒	□
35	B 2	小千谷	国鉄駅	黒	○
36	B 2	十日町	国鉄駅	黒	○
37	B 2	東小千谷	国鉄駅	黒	○
38	B 2	榎峠古戦場	史跡	黒	□
39	B 2	越後滝谷	国鉄駅	黒	○
40	B 2	川口	国鉄駅	黒	○
41	B 2	毘沙門	寺院	黒	□
42	B 2	堀之内	国鉄駅	黒	○
43	B 2	鷲巢定正院	寺院	黒	□
44	B 2	闘牛地二十村	地名	黒	□
45	B 2	栃尾又温泉	温泉	黒	□
46	B 2	小出	国鉄駅	黒	○
47	B 2	浦佐	国鉄駅	黒	○
48	B 2	五日町	国鉄駅	黒	○
49	B 2	六日町	国鉄駅	黒	○
50	B 2	塩沢	国鉄駅	黒	○
51	B 2	雲洞庵	寺院	黒	□
52	B 2	八海山	山岳	黒	□
53	B 2	銀山平溪谷	溪谷	黒	□
54	C 1	刈羽	国鉄駅	黒	○

55	C 1	西山油田	施設	黒	□
56	C 1	西山	国鉄駅	黒	○
57	C 1	越後関原	長岡鉄道駅	黒	○
58	C 1	上除	長岡鉄道駅	黒	○
59	C 1	日越	長岡鉄道駅	黒	○
60	C 1	花火	行事	黒	□
61	C 1	西園寺公宿陣跡	旧跡	黒	□
62	C 1	西長岡	長岡鉄道駅	黒	○
63	C 1	長生橋	橋梁	黒	□
64	C 1	裁判所	施設	黒	□
65	C 1	文治遊郭	施設	黒	□
66	C 1	長盛座	施設	黒	□
67	C 1	みやこ館	施設	黒	□
68	C 1	千手小学校	学校	黒	□
69	C 2	千手観音	寺院	黒	□
70	C 2	税務署	施設	黒	□
71	C 2	工業学校	学校	黒	□
72	C 2	機関庫	施設	黒	□
73	C 2	操車場	施設	黒	□
74	C 2	宮内	国鉄駅	黒	○
75	D 1	石地	国鉄駅	黒	○
76	D 1	出雲崎	地名	黒	□
77	D 1	出雲崎	国鉄駅	黒	○
78	D 1	油田	施設	黒	□
79	D 1	王寺川	長岡鉄道駅	黒	○
80	D 1	水道塔	施設	黒	□
81	D 1	中島小学校	学校	黒	□
82	D 1	盲啞学校	学校	黒	□
83	D 1	長岡座	施設	黒	□
84	D 1	長岡銀行	施設	黒	□
85	D 1	平潟神社	神社	黒	□
86	D 1	越佐新報社	施設	黒	□
87	D 1	赤十字病院	施設	黒	□
88	D 1	市役所	施設	黒	□
89	D 1	北越新報社	施設	黒	□
90	D 1	六十九銀行	施設	黒	□
91	D 1	郵便局	施設	黒	□
92	D 1	表町小学校	学校	黒	□
93	D 1	電話局	施設	黒	□
94	D 2	商工会議所	施設	黒	□
95	D 2	警察署	施設	黒	□
96	D 2	長岡貯蓄銀行	施設	黒	□
97	D 2	坂ノ上小学校	学校	黒	□
98	D 2	長岡日報社	施設	黒	□
99	D 2	実業女学校	学校	黒	□
100	D 2	建設事務所	施設	黒	□
101	D 2	互尊文庫	施設	黒	□
102	D 2	公会堂	施設	黒	□
103	D 2	宝田公園	公園	黒	□
104	D 2	長岡城址	旧跡	黒	□
105	D 2	長岡	地名・国鉄駅	白	●
106	D 2	四郎丸小学校	学校	黒	□
107	D 2	昌福寺	寺院	黒	□
108	D 2	中学校	学校	黒	□
109	D 2	四郎丸駅	栃尾鉄道駅	黒	○
110	D 2	高等工業学校	学校	黒	□
111	D 2	変電所	施設	黒	□

112	D	2	動物園	施設	黒	□
113	D	2	プール	施設	黒	□
114	D	2	悠久山駅	栃尾鉄道駅	黒	○
115	D	2	スキー場	施設	黒	□
116	D	2	飛艇峯	施設	黒	□
117	D	2	悠久山公園	公園	黒	□
118	D	2	蒼紫神社	神社	黒	□
119	D	2	招魂社	神社	黒	□
120	E	1	小木城	地名	黒	□
121	E	1	島崎村	地名	黒	□
122	E	1	良寛ノ墓	旧跡	黒	□
123	E	1	妙法寺	国鉄駅	黒	○
124	E	1	桐原	国鉄駅	黒	○
125	E	1	脇野町	国鉄駅	黒	○
126	E	1	禊原	国鉄駅	黒	○
127	E	1	博覧会場	施設	黒	□
128	E	1	天然瓦斯会社	施設	黒	□
129	E	1	取引所	施設	黒	□
130	E	1	電気館	施設	黒	□
131	E	1	神田小学校	学校	黒	□
132	E	2	河井継之助之故宅	旧跡	黒	□
133	E	2	栄涼寺	寺院	黒	□
134	E	2	河井継之助ノ墓	名勝	黒	□
135	E	2	万才閣	寺院	黒	□
136	E	2	神田口	栃尾鉄道駅	黒	○
137	E	2	農事試験場	施設	黒	□
138	E	2	川崎小学校	学校	黒	□
139	E	2	火葬場	施設	黒	□
140	E	2	試験場原種圃	施設	黒	□
141	F	1	朝鮮行	航路	白	■
142	F	1	第二会場水族館	施設	黒	□
143	F	1	佐渡	地名	黒	□
144	F	1	国上山	山岳	黒	□
145	F	1	良寛上人五合庵	旧跡	黒	□
146	F	1	寺泊	長岡鉄道駅	黒	○
147	F	1	大河津	国鉄/長岡鉄道駅	黒	○
148	F	1	上与板	長岡鉄道駅	黒	○
149	F	1	与板	長岡鉄道駅	黒	○
150	F	1	岩方	長岡鉄道駅	黒	○
151	F	1	町軽井	長岡鉄道駅	黒	○
152	F	1	大河津着船場	施設	黒	□
153	F	1	蔵王城址	旧跡	黒	□
154	F	1	金峰神社	神社	黒	□
155	F	1	北越製紙会社	施設	黒	□
156	F	1	蔵王カーバイト工場	施設	黒	□
157	F	2	高等女学校	学校	黒	□
158	F	2	家政女学校	学校	黒	□
159	F	2	女子師範学校	学校	黒	□
160	F	2	下長岡	栃尾鉄道駅	黒	○
161	F	2	成願寺鈺泉	鈺泉	黒	□
162	G	1	弥彦神社	神社	黒	□
163	G	1	弥彦	国鉄駅	黒	○
164	G	1	地藏堂	国鉄駅	黒	○
165	G	1	大河津分水堰	施設	黒	□
166	G	1	西吉田	国鉄駅	黒	○
167	G	1	巻	国鉄駅	黒	○

168	G	1	鐘潟	湖沼	黒	□
169	G	1	佐渡行	航路	白	■
170	G	1	新潟港	港湾	黒	□
171	G	1	白山	国鉄駅	黒	○
172	G	1	中ノ口川	河川	黒	
173	G	1	信濃川	河川	黒	
174	G	1	燕	国鉄駅	黒	○
175	G	1	本成寺	寺院	黒	□
176	G	1	今町風合戦	行事	黒	□
177	G	1	伊藤道右エ門墓	旧跡	黒	□
178	G	1	見附	国鉄駅	黒	○
179	G	1	三条	国鉄駅	黒	○
180	G	1	五十嵐川	河川	黒	
181	G	1	東三条	国鉄駅	黒	○
182	G	1	伊久礼門之森	名勝	黒	□
183	G	1	加茂	国鉄/蒲原鉄道駅	黒	○
184	G	2	城岡	国鉄駅	黒	○
185	G	2	刈谷田川	河川	黒	
186	G	2	八丁沖古戦場	旧跡	黒	□
187	G	2	見附町	地名	黒	□
188	G	2	上見附	栃尾鉄道駅	黒	○
189	G	2	大面天然瓦斯	施設	黒	□
190	G	2	越後長澤	国鉄駅	黒	○
191	G	2	東山油田	施設	黒	□
192	G	2	宮路	地名	黒	□
193	G	2	石動神社	神社	黒	□
194	G	2	守門山	山岳	黒	□
195	G	2	上杉謙信修養地	旧跡	黒	□
196	H	1	青森	国鉄駅	黒	○
197	H	1	笹川流	地名	黒	□
198	H	1	瀬波温泉	温泉	黒	□
199	H	1	函館ヨリ	航路	白	■
200	H	1	浦塩行	航路	白	■
201	H	1	加治川ノ桜	名勝	黒	□
202	H	1	村上	国鉄駅	黒	○
203	H	1	新潟	国鉄駅	黒	○
204	H	1	阿賀野川	河川	黒	
205	H	1	福島潟	湖沼	黒	□
206	H	1	新発田	国鉄駅	黒	○
207	H	1	新津	国鉄駅	黒	○
208	H	1	出湯温泉	温泉	黒	□
209	H	1	月岡温泉	温泉	黒	□
210	H	1	羽生田	国鉄駅	黒	○
211	H	1	田上繁樞	名勝	黒	□
212	H	1	小合村チューリップ	名産	黒	□
213	H	1	村杉温泉	温泉	黒	□
214	H	1	赤谷温泉	温泉	黒	□
215	H	1	赤谷	国鉄駅	黒	○
216	H	1	村松	蒲原鉄道駅	黒	○
217	H	1	五泉	国鉄/蒲原鉄道駅	黒	○
218	H	2	栗嶽	山岳	黒	□
219	H	2	阿賀野溪谷	溪谷	黒	□
220	H	2	栃尾	栃尾鉄道駅	黒	○
221	H	2	欄外 至郡山	国鉄駅	黒	○



## 7) 鉄道実演館

鉄道館正面中央から鉄路が伸び、野外ステージ脇に鉄道実演館が設けられたが、鳥瞰図にこの施設は描かれない。

## 8) 野外ステージ

鉄道館西側に南東を向いて設けられた野外ステージは、正面が長方形の壁面で、ステージを円弧に開き、壁面は卵色、前方に5人掛けベンチ50台余りを配した<sup>12</sup>。

鳥瞰図において該当する建物は切妻妻入の形式で、ステージは長方形に開かれている。

## 9) 機械館

機械館は配水塔際に配されコの字型の平面となり、屋根は切妻造で配水塔部分が片流れとなっていた。東側の農機実演館側の入口は山形で、正面側に設けられた塔屋は頂線が緩い円弧で、正面両脇に格子状のガラス窓を配した<sup>13</sup>。

鳥瞰図では配水塔を取り囲むように「コ」の字型の屋根型で、入口の塔屋は見られない。

## 10) 水道配水塔 11) エレベーター

配水塔のタンク側面には「わかもと」の看板が掲げられていた<sup>14</sup>。また、塔の東側に鉄骨造のエレベーターが建てられ、昇降機室を囲って観覧台が設けられた<sup>15</sup>。

鳥瞰図にエレベーターは見られない。また、鳥瞰図では塔頂部に三角の赤旗がなびくが、実際には取り付けられなかった。

## 12) 上水道参考館

既存の監視室とポンプ室を用い、監視室にて水道参考品を陳列、ポンプ室で施設の開放を行った<sup>16</sup>。また、ポンプ室上には東京朝日新聞社によるダイヤモンドライトが設置された<sup>17</sup>。

鳥瞰図ではポンプ室のみが記載され、ダイヤモンドライトは描かれていない。

## 13) 北海道館

ポンプ室東には木造平家建、外壁を漆喰仕上とする白亜の北海道館が配され、南側正面には中央には長方形の塔が設けられた<sup>18</sup>。

鳥瞰図では、ポンプ室に類似した直方体の建物が描かれ、塔屋は設けられていない。

## 14) 朝鮮館

北海道館の東に朝鮮館が置かれた。基壇上に建つ朝鮮館は、朱塗りの柱、緑色で反りの強い入母屋造の屋根が特徴的で、棟部分を黄色とする朝鮮宮殿を模した形式を持ち<sup>19</sup>、本館の東側には売店が設けられた。

鳥瞰図における建物は基壇が描かれず、壁面全体を朱色、屋根を黒の入母屋造とし、売店は設けられない。

## 15) ラジオ館

野外ステージ北に長方形平面、外壁を白色とするラジオ館<sup>20</sup>があったが、鳥瞰図に記載はない。

## 16) 九阜橋

浄水池上の緑地が展望台となり、2池間に九阜橋が架けられた<sup>21</sup>。

鳥瞰図で浄水池の展望台は描かれるが橋の記載はない。

## 17) 噴水塔

北海道館南西にポンプを据えて水道用水を揚水し、貯水池際に設けた三角形で高さ3m程の噴水塔に噴き上げ、径3m程の受け台から貯水池に落ち、ここから中央の池へ給水した<sup>22</sup>。

鳥瞰図では、この三角形の池が敷地中央の池と繋がるように描かれるが、実際はつながっていなかった。

## 18) 迎賓館

敷地中央池の北岸際に寄棟造瓦葺葺鉄板葺で周囲に下屋を配した迎賓館が設けられた。屋根は茶褐色、外壁は卵色で、周囲に東洋風のベランダ、テラスが設けられた<sup>23</sup>。

鳥瞰図ではそれに該当する建物は池から離れ、切妻形式で描かれる。

## 19) 生命保険協会噴水塔

敷地中央には五角形の池が設けられ納涼池とも呼称され<sup>24</sup>、池の中央には高さ10m余の生命保険協会噴水塔が配された。塔は七段よりなる六角柱で、各方向に十数条の噴水を上空20m余まで吹き上げたという<sup>25</sup>。なお、池の湖畔に指令塔を設け、池にケーブルを配して模型軍艦の操縦実演を行う予定であったが実行には至らなかったという<sup>26</sup>。

鳥瞰図では池中央に水を吹き上げる噴水塔、池の水面上には鳥のようなものが描かれる。

## 20) 国防館

朝鮮館西側に国防館が設けられた。国防館は西側が陸軍、東側が海軍となる矩形平面の内角部に玄関を設けた。陸軍側が外壁は黄色で上縁は城郭を模し凹凸となり、建物妻面に星形の陸軍のマークを付した。海軍側は外壁が水色、上縁が反り返り、壁面に丸窓を連続的に開き、妻面に碇を付した。中央入口は両側に円柱の塔を配し、中央壁面に日本を赤色とした国防世界地図を掲げた。また、海軍側の建物前に「海軍マスト」（海軍塔）と呼ばれ、艦艇の帆柱を模した塔が建てられた<sup>27</sup>。

鳥瞰図では、出品館の連続として描かれて、上述の容姿を持つ建物と塔屋は見られない。

## 21) ~ 24) 出品本館

出品本館は国防館から西側に伸びる建物で切妻造の長大な建物で、外壁は白漆喰仕上で腰回りは鼠色、屋根は鉄板葺で緑色で、敷地内側に東から4カ所の入口があり西塔屋、中央玄関、東塔屋1、東塔屋2の塔屋が設けられていた。中央玄関が最も規模が大きく、3口の尖塔型アーチの入口が設けられ、矩形の塔四隅に小型で矩形の塔が更に取り付く近代ゴシック風のものであった。西塔屋と東塔屋1が類似の形式で、尖塔型の入口が西塔屋は1口、東塔屋1が2口で、いずれも3段で先すぼまりとなる矩形の塔屋、屋根は方形造で西はゴシック、東は塔洋風にしたという。東塔屋2は1カ所の尖塔型アーチの入口が開き、三角屋根の形式の塔屋とする<sup>28</sup>。

鳥瞰図では切妻造で、前後に1段低い下屋が付き、壁面は水色、屋根は緑色、4カ所の入口塔屋が描かれる。入口の数は西から順に入口は2口、3口、2口、2口となり、入口数では西塔屋と中央玄関だけが実際と合致する。塔屋は西塔屋、東塔屋1がよく類似するが、中央玄関の屋根も方形する。東塔屋2は陸屋根としている。

## 25) 新潟県出品館

新潟県出品館は出品本館東側に屈曲して続いた。中央に20m程で縦の線を強調させた塔を配し、両脇に入口を設けた。建設の大要は出品本館等と類似のものであった<sup>29</sup>。

鳥瞰図では出品本館の4カ所目の入口から屈曲して配されるが、塔屋は描かれない。

## 26) 子供の国

演芸館前に柵を廻し、子供の国が設けられた。内部には飛行機型のメリーゴーランドと富士山登り、トンネル廻りなどが設けられていた<sup>30</sup>。

鳥瞰図では塔と動物型のものだけが配される。

## 27) 演芸館

敷地北西隅に斜めに演芸館が設けられた。腰折屋根で切妻平入の形式で、桁行中央に切妻形式の入口が設けられ、壁面は卵色、屋根は緑色で、全体としてスパニッシュスタイルと、入口両側に売店が設けられた<sup>31</sup>。

鳥瞰図では、新潟県出品館前に置かれる建物が演芸館を指すものと考えられるが、位置が異なり、入口の位置が明らかでない。

また、屋根は緑色であるが、下屋が取り付け、壁面は水色となる。

#### 28) 酒の家

会場では演芸館両脇に数軒ずつ飲食店がそれぞれ異なる形で設けられた。

鳥瞰図では、演芸館の向って右手のみに同形式の建物が描かれている。

#### 29) マジックアイランド

健康館正門際にマジックアイランドが設けられた。建物は切妻妻入の西側妻面に半円形で顔型を模した大看板が取り付け、入口は半円状に出っ張る、エジプト趣味を強く表現した構成であった<sup>32</sup>。

鳥瞰図では、円筒型で方形屋根の建物が描かれるのみである。

#### 30) 奈良館

マジックアイランドの北側に大仏を配する奈良館とその鐘楼が設けられた<sup>33</sup>。

鳥瞰図では、同じ位置には健康館などと同様の建物が描かれる。

#### 31) 倉庫、32) 事務局、33) 健康館、34) 健康別館、35) 繭糸館、36) 農林館

倉庫を含め、以下の事務局、健康館、繭糸館、農林館は長岡商業学校の校舎が用いられ、事務局、健康館、繭糸館は教室、農林館と倉庫は雨天体操場及び柔道場をあて、健康別館のみ新築された<sup>34</sup>。校舎は4列ある建物を直行する2筋の廊下が繋ぐ構成であった。

鳥瞰図では3列の校舎と1列の廊下が描かれ、建物つながりから判断すると農林館が描かれないこととなる。

#### 37) ライオンハミガキ特設館

後述する京都館の前方にライオンハミガキ特設館が設けられた。形態は歯磨きのチューブを象ったもので、壁面に「ライオン歯磨」と記される<sup>35</sup>。

鳥瞰図では尖塔形の塔があり、先端に赤旗が翻る。

#### 38) 京都館

農林館の北側に京都館が配された。京都館は入母屋造銅板葺の宮殿造の建物であった<sup>36</sup>。

鳥瞰図では切妻で下屋が前後に配される建物が置かれる。

#### 39) 台湾館

農林館の北西に台湾館が置かれた。台湾館は2階建て全体軸部が赤茶色、1階が大壁、2階が軸組の構造で、屋根は入母屋造で緑色、棟は黄色であった<sup>37</sup>。

鳥瞰図で台湾館は平屋建、軸組は平面が壁面で朱色、妻面が緑色、屋根は黒となる。

#### 40) 樺太館

樺太館は台湾館の西側に配された。建物は2階建て1階は朱色を基調に三角の装飾があり、2階は白、中央に矩形の塔があり頂部に旗が舞った。なお、中央入口は三角の庇で角部に皮付き白樺の円柱を立てた<sup>38</sup>というが、鳥瞰図に樺太館は描かれない。

#### 41) 名古屋館

樺太館の北側には名古屋城を模した名古屋館が建てられた<sup>39</sup>が、鳥瞰図には描かれない。

#### 42) 宝翰堂文具館

正門の東側に宝翰堂文具館が置かれた。宝翰堂文具館は北西隅が円弧の壁と塔があり、背面に「ライトインキ」「パイロット高級万年筆」と記された高い広告塔が建った<sup>40</sup>。

鳥瞰図では北西角に2段の円形の壁が建つ建物が建つが、広告等は見られない。

#### ・鳥瞰図『長岡市大観図』制作の日程と背景

以上、鳥瞰図『長岡市大観図』に描かれた博覧会の主要建物と、

表2 『長岡大観』における博覧会建物の類似

番号	建物名	類似する	やや類似	類似しない
1	正門	○		
2	警官詰所			×
3	郵便出張所			×
4	鉄道案内所			×
5	長岡出品館		△	
6	鉄道館		△	
7	鉄道実演館			×
8	野外ステージ		△	
9	機械館		△	
10	水道配水塔	○		
11	エレベーター			×
12	上水道参考館	○		
13	北海道館		△	
14	朝鮮館		△	
15	ラジオ館			×
16	九阜橋			×
17	噴水塔	○		
18	迎賓館		△	
19	生命保険協会噴水塔		△	
20	国防館		△	
21	出品本館/西塔屋	○		
22	出品本館/中央玄関	○		
23	出品本館/東塔屋1		△	
24	出品本館/東塔屋2		△	
25	新潟県出品館		△	
26	子供の国		△	
27	演芸館		△	
28	酒の家		△	
29	マジックアイランド		△	
30	奈良館			×
31	倉庫	○		
32	事務局	○		
33	健康館	○		
34	健康別館			×
35	繭糸館	○		
36	農林館			×
37	ライオンハミガキ特設館		△	
38	京都館		△	
39	台湾館		△	
40	樺太館		△	
41	名古屋館		△	
42	宝翰堂文具館		△	
	合計	10	22	10

実際の建物の類似関係を示したものが表2で、両者は過半が実際とは異なった形に描かれ、更には鳥瞰図には描かれない施設も多数、存在したことが分かる。比較的正確に描かれているのは、既存施設である配水塔、ポンプ室や商業学校などの施設、正門、噴水塔、出品本館など主催者側の施設に限られる。何故このようなことが起こったのであろうか。以下ではこの点を考えてみよう。

まずは鳥瞰図『長岡市大観図』の制作日程を会誌から検証してみたい。

本博覧会における鳥瞰図の作成に当っては、既に昭和5(1930)年12月中旬に作成され、各方面に配布された日程表によれば昭

表3 『長岡大観』と『長岡市と近郊』の比較

『長岡市大観』	『長岡市と近郊』
	前編 長岡市
	13. 名勝
長岡城址	長岡城址
公会堂	公会堂
宝田公園	宝田公園
大手通り	大手通り
長岡市役所	長岡市役所
赤十字病院	日本赤十字社新潟支部病院
互尊文庫	互尊文庫
郵便局	郵便局
北陸新報社	北陸新報社
六十九銀行	六十九銀行
表町通り	表町通り
本町通り	本町通り
長岡銀行	長岡銀行
平湯神社	平湯神社
越佐新報社	越佐新報社
千手の観音様	千手観音様
雪場	雪場
信濃川	信濃川
長生橋	長生橋
文治遊廓	文治遊廓
上水道浄水場	上水道浄水場
博覧会	
蔵王神社	蔵王神社
北越製紙会社	北越製紙会社
北越水力電気会社蔵王工場	北越水力電気会社蔵王工場
城岡駅	城岡駅
古戦場	古戦場
万歳園	万歳園
長岡中学校	長岡中学校
長岡高等工業学校	長岡高等工業学校
悠久山公園及誓祭神社	悠久山公園及誓祭神社
	14. 史蹟
	丹波井戸
	丹波街道
	丹波河戸
	光次上人墓
	鶴殿春風墓
	河井継之助墓
	河井継之助故宅

和6（1931）年5月中旬に“博覧会鳥瞰図”の作成が予定されていた<sup>41</sup>。実際には昭和6（1931）年5月6日に行われた宣伝部の会議において“鳥瞰図作成其他”が議題となり、この案件は可決された<sup>42</sup>。以後における経過の詳細は明らかではないが、7月15日には“鳥瞰図”17,000枚の印刷が決まり<sup>43</sup>、“絵葉書”は7月31日に出来上がり<sup>44</sup>、8月5日には“鳥瞰絵葉書”10,000枚が工政会へ送付されているのである<sup>45</sup>。

なお、本博覧会において「鳥瞰図」は数種類が制作されており、これが直接、同一の作者により描かれたものを指すとは一概には言い切れない。鳥瞰図の1点目がこの『長岡大観』に所収され、今回考察の対象とした鳥瞰図『長岡市大観図』であり、2点目として

原図で再三改版し一尺五寸の二尺の一枚絵五色刷り日本画風の鳥瞰図を作り裏面には藍で趣意書、会の概況、観覧の葉、本会の誇りの六項目を印刷して来賓や出品人に配布した<sup>46</sup>

とする鳥瞰図（以後これを「日本画風鳥瞰図」と記す）が存在し<sup>47</sup>、これら以外にも3点目として

エハガキ《中略》

	印刷	内容	発行者
鳥瞰図エハガキ	描版四色	一枚	全
全	プロセス原色	一枚	全 <sup>48</sup>

とするものも作成されている。上述した8月5日送付の鳥瞰絵葉書とは、3点目の“エハガキ”を指すことはあきらかであるが、それ以前の段階で会誌に“鳥瞰図”とされるものが『長岡市大観図』を指すのか、日本画風鳥瞰図を指すのか定かではない。但し、“一尺五寸の二尺”とする寸法から判断すると、鳥瞰図『長岡市大観図』と日本画風鳥瞰図は別物と考えるべきであろう。

さて、『長岡大観』に所収され今回考察の対象とした鳥瞰図『長岡市大観図』の作成は、“実地踏査回数苦心数十日の後”<sup>49</sup>作成がなされたという。鳥瞰図の印刷がいずれにせよ7月中旬に

近郊名勝	後編 近郊案内
浦瀬石油地	1. 概勢
大面天然ガス	2. 長岡近郊
大河津分水	鷺の巣定正院
良寛上人遺跡	やまのうまや
弥彦神社	二十村牛の角つき
井栗村	木食上人
田上の繫樞	成願寺鉱泉
本成寺	浦瀬石油地
浦佐毘沙門堂	源義家歌碑
栃尾又温泉	石動権現
銀山平	つゝばのありご堂
二十村牛の角つき	大つゝじ
	3. 栃尾鉄道沿線
	栃尾町
	4. 信越線下り方面
	大面天然ガス
	見附町
	義民与茂七
	今町の風合戦
	本成寺
	三条町
	県立種畜場
	八木ヶ鼻
	五十嵐神社
	井栗村
	加茂町
	羽生田地蔵
	田上の繫樞
	新潟市
	佐渡
	5. 弥彦線
	燕町
	弥彦神社
	6. 長岡鉄道沿線
	小木の城
	与板町
	良寛和尚墓
	寺泊町
	浦浜
	国上山
	酒谷童子遺跡
	炭木童子
	大河津分水
	出雲崎
	7. 信越線上り方面
	片貝
	石津村
	義民碑
	西谷鉱泉
	墓間鉱泉
	広田鉱泉
	米山
	鯉波海水浴場
	高田市
	8. 上越線沿線
	櫻峠古戦場
	小千谷町
	川口の梁
	魚沼神社
	愛染明王
	魚沼郡
	七ツ釜
	苗場山
	躰獨原
	七ツ釜の伝説
	十日町
	堀の内町
	小出町
	栃尾又温泉
	銀山平
	浦佐毘沙門堂
	八海山
	六日町
	雲洞庵
	塩沢町
	北越雪譜
	湯沢温泉
	上越線
名物	15. 名物
鮭	鮭
鮎	鮎
百合	百合
ぜんまい	ぜんまい
また、び漬	また、び漬
味噌及味噌漬	味噌及味噌漬
越の雪	越の雪
大手饅頭	大手饅頭
ヨーロッパ鮎	ヨーロッパ鮎
唐木細工	唐木細工
スキー	スキー
木目人形	木目人形
袖・シルクポーラ、変羽二重	袖・シルクポーラ・変羽二重
俚語	16. 俚語



なされたとすれば、鳥瞰図『長岡市大観図』の作成は遅くとも5月末位からは行われていたとするのが妥当であろう。つまり、鳥瞰図『長岡市大観図』は昭和6(1931)年5月末頃から7月中旬にかけて作成されたと思定できるのである。

一方、同時に進行していた博覧会自体の準備はどのように進捗していたのであろうか。

博覧会準備の日程を見ると、展望台のエレベーター設置の決定は昭和6(1931)年の7月26日<sup>50</sup>と開会直前のことであり、これは鳥瞰図『長岡市大観図』の作成が終わってからと見るのが妥当である。実際、会場の平面図が確定したのは7月15日のこととされるものの、以後も度々設計変更があったという<sup>51</sup>。

そのような博覧会準備日程の中で鳥瞰図の作成がなされたとすべきなのである。恐らく、図の作成に際しては予定地の地図や会場写真、鳥瞰写真などは既にあり<sup>52</sup>、それらが鳥瞰図『長岡市大観図』の作者にも渡されていたのであろうが、博覧会の建物についての確実な情報は極めて限定的であったと言えるのである。

つまり、鳥瞰図『長岡市大観図』の制作が実質的に行われた昭和6(1931)年6月頃の段階において明らかとなっていた博覧会の情報を元に描かれたのがこの鳥瞰図『長岡市大観図』であったわけである。それ故に既存の商業学校施設を用いる健康館などの一角や水道施設などは比較的正確に描かれるものの、他については未確定な情報により描かざるを得なかったため、既に見たように過半の建物が実際とは異なる形として表現されているのであろう。

#### 4 長岡市大観・近郊名勝・名物の内容検討

鳥瞰図『長岡市大観図』裏面には長岡市大観、近郊名勝、名物(以後、3点の総称として「裏面長岡市大観」と略す)が印刷される、その内容はどのように取捨して成文化されたのであろうか。本項では次にその点を見て行きたい。

この裏面長岡市大観の内容を詳細に見て行くと、類似する記述は『長岡市と近郊』<sup>53</sup>と題される書籍にたどり着くこととなる。

まず、裏面長岡市大観と『長岡市と近郊』の目次を比較したものが表3となり、両者の関係は、『長岡市と近郊』が裏面長岡市大観をほぼ包含することとなる。

文章の内容から検討すると、裏面長岡市大観では長岡市大観以下、冒頭の4行は『長岡市と近郊』にも見当たらない。また、“近郊名勝”の項目において、浦瀬石油地、大面天然ガス、大河津分水、良寛上人遺跡、弥彦神社、井栗村、田上の繫樞の記述が裏面長岡市大観と『長岡市と近郊』では大幅に異なり、その他では大手通り、赤十字病院、表町通り、千手の観音様、文治遊郭、万歳閣、浦佐毘沙門堂鮎の項目において軽微な変更が確認された。

文章の内容から前後関係を見ると、『長岡市と近郊』87頁、浦佐毘沙門堂の項目において、

上越線に乗つて一時間浦佐駅に降りると特別保護建造物毘沙門堂様がある。

とするのに対して、裏面長岡市大観では、

上越線に乗つて一時間浦佐駅に降りると特別保護建造物毘沙門堂様があつたが昭和六年五月にやけた。

とあることより、『長岡市と近郊』が先行的にあり、これをある部分は改めて、裏面長岡市大観の編集がなされたと見てよいだろう。

#### ・鳥瞰図『長岡市大観図』及び長岡市大観・近郊名勝・名物と『長岡市と近郊』の関係

裏面長岡市大観と『長岡市と近郊』両者の記述はこれだけ類似するのであるが、それでは『長岡市と近郊』はどのような編集方針の下に、何時頃作成されたものであろうか。

『長岡市と近郊』奥書を見ると、同誌の発行主体は長岡市で、発行年月日は昭和6(1931)年8月21日、即ち鳥瞰図『長岡市大観図』の発行と同日、つまり上越線全通記念博覧会開会日当日の発行となる。つまり、『長岡市と近郊』も博覧会との関係において発刊のなされたと思定されるのである。

この点について会誌は、

長岡市と近郊、例年の市勢要覧は統計期限の関係上八月末日にならねば前年の事実の集計は出来ぬのであるが本年は課員を監励して七月中に取纏め<sup>54</sup>

たとある。更に、後編となる“近郊案内”については

六月二十七日付で中越七郡の主要町村或は神社仏閣、教育会等へ依頼して縁起や町勢一覧を集め之を参照して四六版八十六ページのパンフレットを作成配布した。<sup>55</sup>

とあるように、栃尾外38町村宛てに博覧会案内書作成のためとして資料送付方依頼が行われている<sup>56</sup>。

この点は『長岡市と近郊』の“序”において

本市は累年市勢要覧を編纂発行し来つたが本年は上越線全通記念博覧会を開催するので特に近郊にも記載を及ぼしつとめて附近の案内にも便する様に記述した次第である<sup>57</sup>

とあり、更に『長岡市と近郊』“凡例”では

長岡の概要をしらんとする人は前編第二章を、詳細に亘らんとせらるれば第一章を、近郊遠郊を採勝せんとする人は後編を御覧願ひたい<sup>58</sup>

とする。つまり、『長岡市と近郊』前編第二章とは“長岡市の誇り”とするもので第一章末尾に、名勝、史蹟、名物、俚謡の項目が挙げられて、後編に近郊案内が路線別に記されており、その最後となる88頁に、「裏面長岡市大観」と同様に

(星山貢)

の名を見ることができるのである。

このように、『長岡市と近郊』も出品宣伝部の星山貢の下、博覧会の開会に向けて鋭意作成がなされたのである。

#### ・『長岡観図』と『長岡市と近郊』の作成と配布

それでは、何故、『長岡市と近郊』は鳥瞰図『長岡市大観図』とともに、例年の8月末刊行を前倒しにして、8月21日開会式当日に間に合わせる必要があったのだろうか。この点について会誌は以下のように伝える。

開会式《中略》当日全国各地から来賓の内に朝鮮黄海道評議員視察団が白参与官以下十六名特に来会せられたのは最も遠いお客様であつた。受付係は一々名簿と対照し。

市内、徽章、食券、博覧会エハガキ、協賛会エハガキ、会場案内図。

市外、右の外「長岡市と近郊」「長岡大観」市地図。

を博覧会、協賛会連名の茶ハترون紙袋に入れて贈呈

即ち、「長岡市と近郊」「長岡大観」は、開会式に併せて、当時の朝鮮など、市外からの来賓に対して配布するため、開会式である昭和6(1931)年8月21日に発行される必要があったのである。

#### 5 鳥瞰図『長岡市大観図』の作者

鳥瞰図『長岡市大観図』には、向って右下に“正ミチ”の書込みがあり、会誌にはよれば

長岡大観 当市在住の執行正道画伯を煩し<sup>59</sup>

作成されたものとする。

執行正道は吉田初三郎らと同時代の鳥瞰図絵師とされる<sup>60</sup>が、これ以上の点について、詳細は現時点で明らかではない。

#### 6 さいごに

『以上の考察から、鳥瞰図『長岡市大観図』については次の



ようにまとめることができよう。

- 1) 鳥瞰図『長岡市大観図』は昭和6（1931）年8月、上越線全通記念博覧会に際して、長岡在住の執行正道により描かれた。
- 2) 鳥瞰図『長岡市大観図』に描かれる博覧会建物は、既存施設以外は不正確のものが多く、その理由は未確定な情報に基づき制作を行わなければならなかった日程的な制約による面が強い。
- 3) 鳥瞰図『長岡市大観図』裏面の長岡市大観、近郊名勝、名物は、例年発刊されている市勢要覧を編集した『長岡市と近郊』から、市内分はほぼ引用し、市外郊外部分はかなり量の書き改めて再編集したものである。
- 4) 鳥瞰図『長岡市大観図』、『長岡市と近郊』とも博覧会の出品宣伝部である星山貢のもと、編集印刷がなされた。

## 注 記

- <sup>1</sup> 最終行の“悠久山の桜狩”は本調子に続く春の巻となる。
- <sup>2</sup> 但し、線路記号の赤線は豊野まで達してはいない。
- <sup>3</sup> 長岡市：長岡市主催上越線全通記念博覧会誌 グラビア、昭和7(1932).7。なお、以下同誌を単に「会誌」と略記する。
- <sup>4</sup> 長岡市：会誌 附録48頁、前掲、によれば星山の部長及び課長への就任は昭和5(1930)年12月1日とあるが、3月1日の誤植であろう。誤植の原因は恐らく、原稿の段階において縦書きで“三月”とあったものを“一二月”と読んだためと考えられる。  
ちなみに同書100頁の出張概要及び、同書44頁の見学によると、星山は既に昭和5(1930)年4月から精力的に出張を行い、昭和5(1930)年5月には東京及び横須賀へ海と空の博覧会、甲府市産業博覧会に見学視察を行い、加えて同書158頁によれば8月11日から17日にかけては出品の出張勧誘として、長野、群馬、埼玉、千葉、茨城、栃木、福島、8月21日から9月3日には富山、石川、福井、大阪、和歌山、兵庫、滋賀、三重、岐阜、愛知、静岡、山梨、長野の各県を廻っている。
- <sup>5</sup> 寺泊からの“佐渡行”のみ、向って右上から左下への斜めに配する。
- <sup>6</sup> 長岡市：会誌、上越線全通記念博覧会第一会場（長岡市）配置図裏面、前掲
- <sup>7</sup> 長岡市：会誌139頁、前掲
- <sup>8</sup> 長岡市：会誌、上越線全通記念博覧会第一会場図（長岡市）、前掲
- <sup>9</sup> 長岡市：会誌142頁、前掲
- <sup>10</sup> 長岡市：会誌140頁、前掲
- <sup>11</sup> 長岡市：会誌141頁、前掲
- <sup>12</sup> 長岡市：会誌142頁、前掲
- <sup>13</sup> 長岡市：会誌140頁、前掲
- <sup>14</sup> 長岡市：会誌、「全景（開会式当日朝日機撮影）」写真、前掲
- <sup>15</sup> 長岡市：会誌142頁、前掲
- <sup>16</sup> 長岡市：会誌146頁、前掲
- <sup>17</sup> 長岡市：会誌326頁、前掲。“径十数尺歪形の外面は無数の鏡の切子となり其回転に伴つて赤紫とりゝの光影を遠く映発する”とある。
- <sup>18</sup> 長岡市：会誌144頁、前掲
- <sup>19</sup> 長岡市：会誌143頁、前掲
- <sup>20</sup> 長岡市：会誌141頁、前掲
- <sup>21</sup> 長岡市：会誌150頁、前掲
- <sup>22</sup> 長岡市：会誌337頁、前掲

- <sup>23</sup> 長岡市：会誌145頁、前掲
- <sup>24</sup> 長岡市：会誌149頁、前掲
- <sup>25</sup> 長岡市：会誌145頁、前掲
- <sup>26</sup> 長岡市：会誌345頁、前掲
- <sup>27</sup> 長岡市：会誌140-141頁、前掲
- <sup>28</sup> 長岡市：会誌139頁、前掲。なお、塔屋の名称の内、東側は報告書にも適当なものがなく、“東塔屋1”“東塔屋2”とした。
- <sup>29</sup> 長岡市：会誌140頁、前掲
- <sup>30</sup> 長岡市：会誌354、420頁、前掲
- <sup>31</sup> 長岡市：会誌144-145頁、前掲
- <sup>32</sup> 長岡市：会誌142頁、前掲
- <sup>33</sup> 長岡市：会誌357頁、前掲
- <sup>34</sup> 長岡市：会誌146頁、前掲
- <sup>35</sup> 長岡市：会誌358頁、前掲
- <sup>36</sup> 長岡市：会誌365頁、前掲
- <sup>37</sup> 長岡市：会誌144頁、前掲
- <sup>38</sup> 長岡市：会誌144頁、前掲
- <sup>39</sup> 長岡市：会誌367頁、前掲
- <sup>40</sup> 長岡市：会誌367頁、前掲
- <sup>41</sup> 長岡市：会誌53-55頁、前掲
- <sup>42</sup> 長岡市：会誌113頁、前掲
- <sup>43</sup> 長岡市：会誌 附録17頁、前掲
- <sup>44</sup> 長岡市：会誌 附録18頁、前掲
- <sup>45</sup> 長岡市：会誌 附録19頁、前掲
- <sup>46</sup> 長岡市：会誌451頁、前掲
- <sup>47</sup> この他に「会場平面図」として設計確定するや七月十五日に先づ二千枚を以後は消耗し尽したり、又は設計が変更する毎に改版して四回に亘り単色、二色、三色等に之を作り、上下偶の空欄に本会要綱入場料及割引規程或は本会の誇りと題して数項の特徴を記載し後には会場案内記を記載して各方面へ配布し、或は市内装飾業者に連名名人として配布せしめ又丸て及五十嵐運送店平石製綿商店で多数を印刷配布し、刈羽郡人会は八月一日本会から若干助成して五千枚を印刷同郡内に配布し、開会後は印刷屋が印刷販売した。とするものが作成されている。長岡市：会誌297-298頁、前掲。
- <sup>48</sup> 長岡市：会誌451頁、前掲。なお、3行目の“全”とは、発行者が“上越博覧会”であることを示す。
- <sup>49</sup> 長岡市：会誌 450頁、前掲
- <sup>50</sup> 長岡市：会誌 附録18頁、前掲
- <sup>51</sup> 長岡市：会誌 297頁、前掲
- <sup>52</sup> 長岡市：会誌 附録17頁、前掲。附録の日誌において昭和6（1931）年4月28日の欄に、“長岡駅長へ地図 鳥瞰写真 会場写真等星山ヨリ揭示”とある。
- <sup>53</sup> 長岡市：長岡市と近郊、昭和6（1931）.8
- <sup>54</sup> 長岡市：会誌 450頁、前掲
- <sup>55</sup> 長岡市：会誌 450頁、前掲。なお、手許の『長岡市と近郊』は88頁まで頁数が振られ、更に奥付などが付される。
- <sup>56</sup> 長岡市：会誌 附録16頁、前掲
- <sup>57</sup> 長岡市：長岡市と近郊、序、昭和6（1931）.8
- <sup>58</sup> 長岡市：長岡市と近郊、凡例、昭和6（1931）.8
- <sup>59</sup> 長岡市：会誌 450頁、前掲
- <sup>60</sup> 藤本一美：初三郎と同時代を生きた鳥瞰図絵師たち、別冊太陽 大正・昭和の鳥瞰図絵師 吉田初三郎のパノラマ図、平凡社、平成14（2002）.10

# 長生橋大観

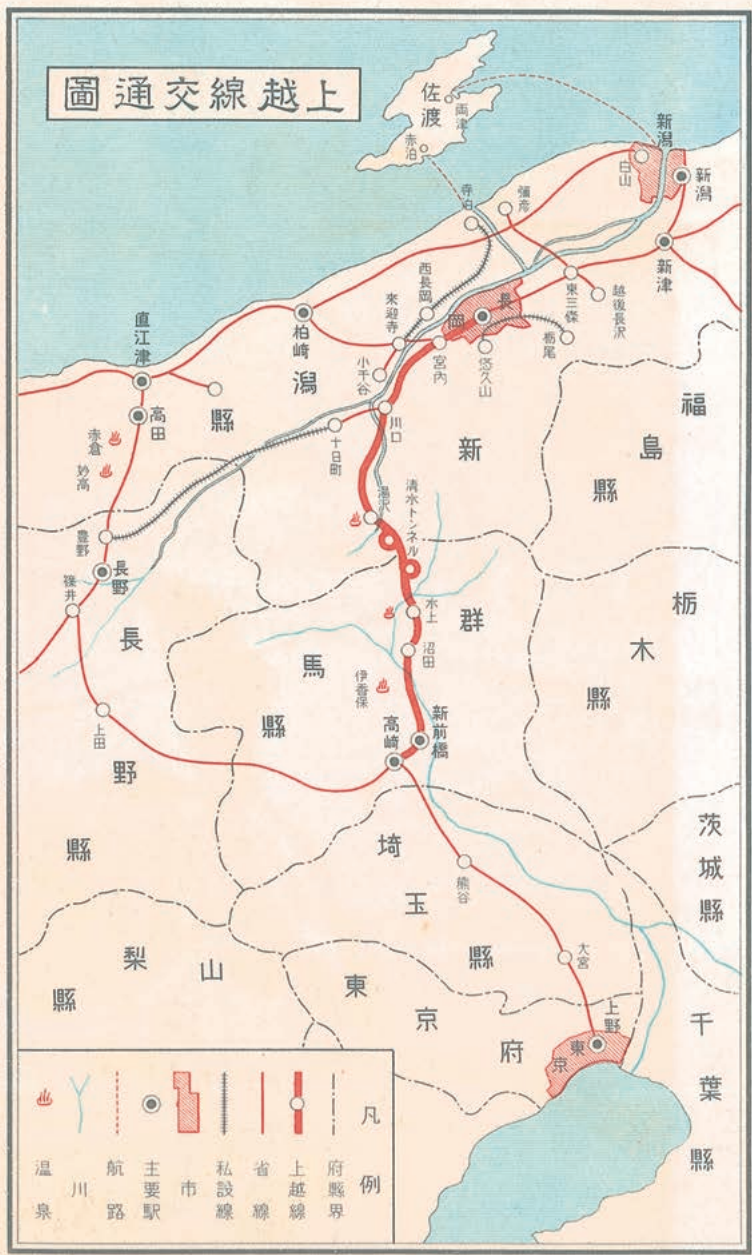


長生橋





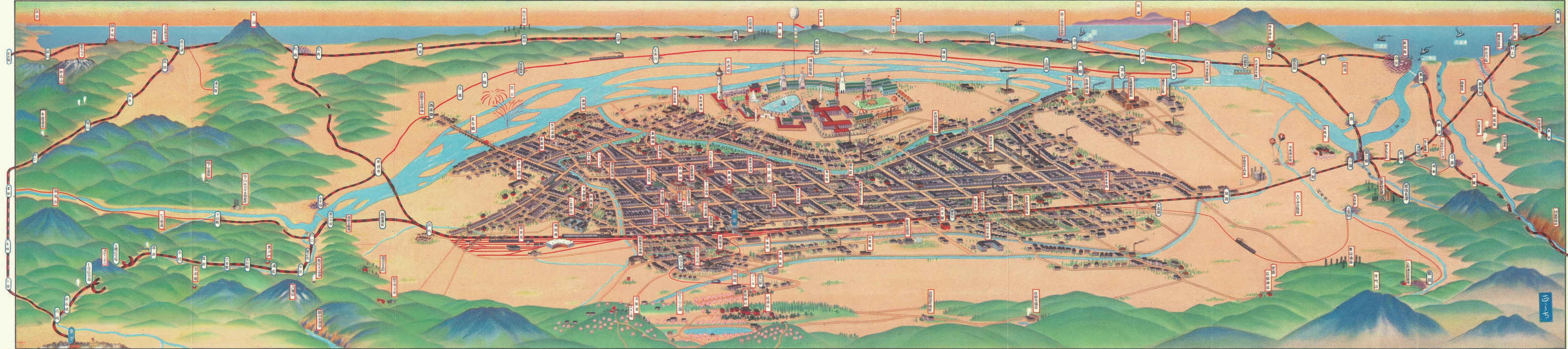
# 上越交通線圖



								凡例
温泉	航路	主要駅	市	私設線	省線	上越線	府縣界	

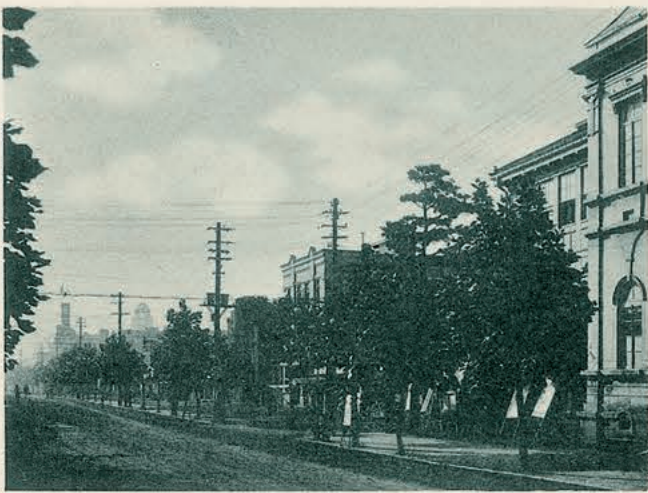


長岡市大觀圖

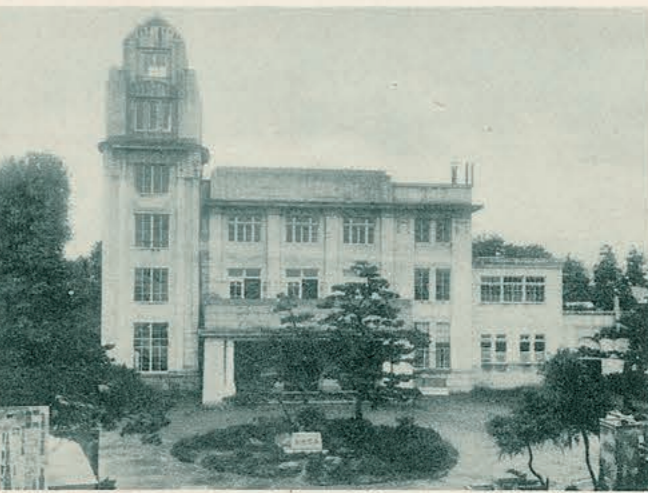




大 手 通 (り通場車停) 通 手 大



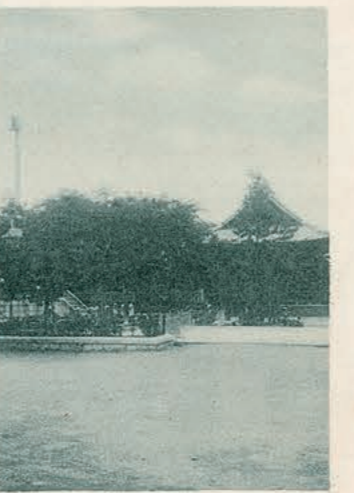
市 立 公 立 會 堂



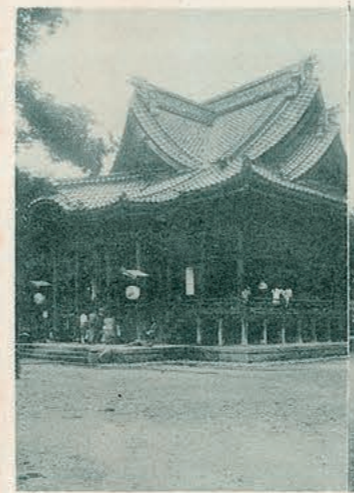
市 立 互 立 文 庫



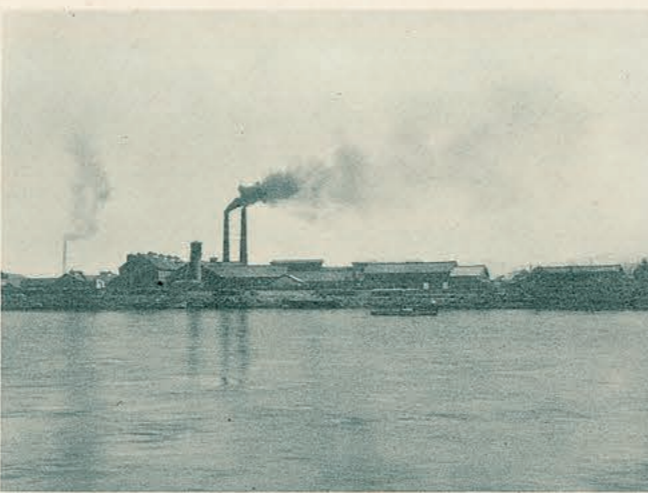
縣 社 湯 平



縣 社 藏 金 王 峰 神 社



信 濃 川 よ り 見 ら れ た 工 場 地 帯



手 観 香 (千 蔵 院)

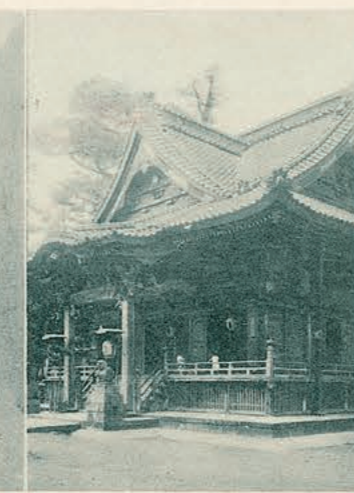
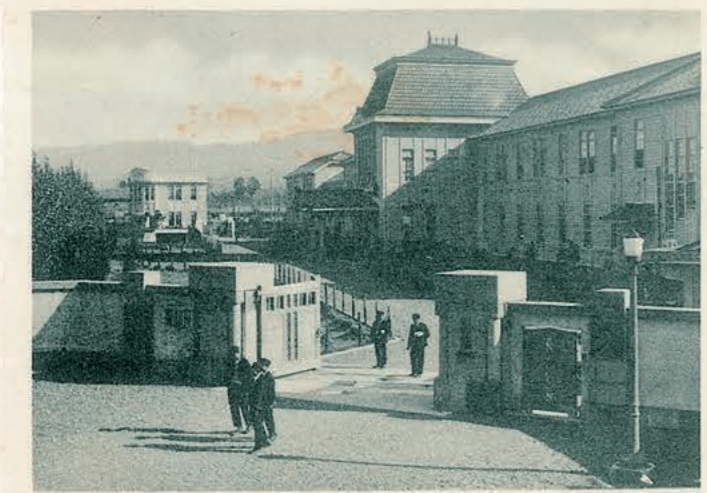


表 町 通 り 積 雪 の 景



長 岡 高 等 工 業 學 校



悠 久 山 公 園 (飛 艇 降 降)



### 長岡市大観

長岡は人口五萬八千、一萬一千戸の新潟縣の真只中、信濃川の邊りにある新潟縣第二位の都市であつた。三百年の歴史をもち、市制施行以來今年は丁度二十五年である。市民は愛するの念にとり、公事に盡すの美風があり、全國にも屈指の商業都市として駁駁と發達してゐる。

長岡城址 長岡城は牧野氏累代の居城であつた。八文字構の島城と稱し、其の雄張は狐がやつたといふ傳説をもち、沼澤に依る平城ではあつたが、築城學上有名なもので、昔は其の道の人々が見學に來たものである。今は富士に立つ影をなすの山、今も現れてゐる。今の長岡驛が其の本丸であるが、維新の變に西軍を半壁に包んで食ひ止めた激戦に焼けた。今も公堂のある四田公園、其の老樹と城内稻荷の丘が昔の外濠の名残を止めて居る。昭和四年に城跡碑を公堂前に掲げた。題字は萬葉集の「昔の城跡を止めて居る」とある。昭和四年に城跡碑を公堂前に掲げた。題字は萬葉集の「昔の城跡を止めて居る」とある。

公會堂 大正十五年全國に二十四ヶ所の公會堂をもち、市長岩田衛氏である。大正十四年、公會堂を建設し、その名を「公會堂」とした。公會堂は、市民の集會場として、大正十四年に完成した。公會堂は、市民の集會場として、大正十四年に完成した。

寶田公園 寶田公園は、長岡市の中心地である。公園には、多くの遊樂施設があり、市民の憩いの場となっている。寶田公園は、長岡市の中心地である。公園には、多くの遊樂施設があり、市民の憩いの場となっている。

大手通り 大手通りは、長岡市の主要な通りである。通りには、多くの商店やビルがあり、活気あふれる街並みとなっている。大手通りは、長岡市の主要な通りである。通りには、多くの商店やビルがあり、活気あふれる街並みとなっている。

長岡市役所 長岡市役所は、市長官邸と併設されている。市役所は、市民の行政サービスを提供する重要な施設である。長岡市役所は、市長官邸と併設されている。市役所は、市民の行政サービスを提供する重要な施設である。

赤十字病院 赤十字病院は、長岡市の主要な医療施設である。病院には、多くの診療科があり、市民の健康を守るために尽力している。赤十字病院は、長岡市の主要な医療施設である。病院には、多くの診療科があり、市民の健康を守るために尽力している。

雪 雪は、長岡市の冬の風景を彩る重要な要素である。雪が降り、街は白く染まり、市民は冬の楽しみを見つける。雪は、長岡市の冬の風景を彩る重要な要素である。雪が降り、街は白く染まり、市民は冬の楽しみを見つける。

信濃川 信濃川は、長岡市を流れる主要な河川である。川には、多くの遊樂施設があり、市民の憩いの場となっている。信濃川は、長岡市を流れる主要な河川である。川には、多くの遊樂施設があり、市民の憩いの場となっている。

北越新報社 北越新報社は、長岡市の主要な新聞社である。新聞は、市民の情報を提供し、社会の発展に貢献している。北越新報社は、長岡市の主要な新聞社である。新聞は、市民の情報を提供し、社会の発展に貢献している。

表町通り 表町通りは、長岡市の主要な通りである。通りには、多くの商店やビルがあり、活気あふれる街並みとなっている。表町通りは、長岡市の主要な通りである。通りには、多くの商店やビルがあり、活気あふれる街並みとなっている。

本町通り 本町通りは、長岡市の主要な通りである。通りには、多くの商店やビルがあり、活気あふれる街並みとなっている。本町通りは、長岡市の主要な通りである。通りには、多くの商店やビルがあり、活気あふれる街並みとなっている。

長岡銀行 長岡銀行は、長岡市の主要な金融機関である。銀行は、市民の金融サービスを提供し、社会の発展に貢献している。長岡銀行は、長岡市の主要な金融機関である。銀行は、市民の金融サービスを提供し、社会の発展に貢献している。

平湯神社 平湯神社は、長岡市の主要な神社である。神社には、多くの祭事があり、市民の信仰の場となっている。平湯神社は、長岡市の主要な神社である。神社には、多くの祭事があり、市民の信仰の場となっている。

越佐新報社 越佐新報社は、長岡市の主要な新聞社である。新聞は、市民の情報を提供し、社会の発展に貢献している。越佐新報社は、長岡市の主要な新聞社である。新聞は、市民の情報を提供し、社会の発展に貢献している。

千手の観音様 千手の観音様は、長岡市の主要な観光名所である。観音様は、市民の信仰の場となっており、多くの参拝客が訪れる。千手の観音様は、長岡市の主要な観光名所である。観音様は、市民の信仰の場となっており、多くの参拝客が訪れる。

雪 雪は、長岡市の冬の風景を彩る重要な要素である。雪が降り、街は白く染まり、市民は冬の楽しみを見つける。雪は、長岡市の冬の風景を彩る重要な要素である。雪が降り、街は白く染まり、市民は冬の楽しみを見つける。

信濃川 信濃川は、長岡市を流れる主要な河川である。川には、多くの遊樂施設があり、市民の憩いの場となっている。信濃川は、長岡市を流れる主要な河川である。川には、多くの遊樂施設があり、市民の憩いの場となっている。

北越新報社 北越新報社は、長岡市の主要な新聞社である。新聞は、市民の情報を提供し、社会の発展に貢献している。北越新報社は、長岡市の主要な新聞社である。新聞は、市民の情報を提供し、社会の発展に貢献している。

表町通り 表町通りは、長岡市の主要な通りである。通りには、多くの商店やビルがあり、活気あふれる街並みとなっている。表町通りは、長岡市の主要な通りである。通りには、多くの商店やビルがあり、活気あふれる街並みとなっている。

本町通り 本町通りは、長岡市の主要な通りである。通りには、多くの商店やビルがあり、活気あふれる街並みとなっている。本町通りは、長岡市の主要な通りである。通りには、多くの商店やビルがあり、活気あふれる街並みとなっている。

長岡銀行 長岡銀行は、長岡市の主要な金融機関である。銀行は、市民の金融サービスを提供し、社会の発展に貢献している。長岡銀行は、長岡市の主要な金融機関である。銀行は、市民の金融サービスを提供し、社会の発展に貢献している。

平湯神社 平湯神社は、長岡市の主要な神社である。神社には、多くの祭事があり、市民の信仰の場となっている。平湯神社は、長岡市の主要な神社である。神社には、多くの祭事があり、市民の信仰の場となっている。

越佐新報社 越佐新報社は、長岡市の主要な新聞社である。新聞は、市民の情報を提供し、社会の発展に貢献している。越佐新報社は、長岡市の主要な新聞社である。新聞は、市民の情報を提供し、社会の発展に貢献している。

千手の観音様 千手の観音様は、長岡市の主要な観光名所である。観音様は、市民の信仰の場となっており、多くの参拝客が訪れる。千手の観音様は、長岡市の主要な観光名所である。観音様は、市民の信仰の場となっており、多くの参拝客が訪れる。

### 近郊名勝

浦瀧石油地 浦瀧石油地は、長岡市の近郊にある。石油地は、市民の生活を支える重要な資源である。浦瀧石油地は、長岡市の近郊にある。石油地は、市民の生活を支える重要な資源である。

古戦場 古戦場は、長岡市の歴史を語る重要な場所である。古戦場には、多くの戦跡があり、市民の歴史教育の場となっている。古戦場は、長岡市の歴史を語る重要な場所である。古戦場には、多くの戦跡があり、市民の歴史教育の場となっている。

萬歳閣 萬歳閣は、長岡市の主要な観光名所である。閣には、多くの祭事があり、市民の信仰の場となっている。萬歳閣は、長岡市の主要な観光名所である。閣には、多くの祭事があり、市民の信仰の場となっている。

長岡中學校 長岡中學校は、長岡市の主要な教育機関である。中學校は、市民の教育を担っており、社会の発展に貢献している。長岡中學校は、長岡市の主要な教育機関である。中學校は、市民の教育を担っており、社会の発展に貢献している。

長岡高等工業學校 長岡高等工業學校は、長岡市の主要な教育機関である。工業學校は、市民の技術教育を担っており、社会の発展に貢献している。長岡高等工業學校は、長岡市の主要な教育機関である。工業學校は、市民の技術教育を担っており、社会の発展に貢献している。

悠久山公園及蒼葉神社 悠久山公園及蒼葉神社は、長岡市の主要な観光名所である。公園には、多くの遊樂施設があり、市民の憩いの場となっている。悠久山公園及蒼葉神社は、長岡市の主要な観光名所である。公園には、多くの遊樂施設があり、市民の憩いの場となっている。

彌彦神社 彌彦神社は、長岡市の主要な神社である。神社には、多くの祭事があり、市民の信仰の場となっている。彌彦神社は、長岡市の主要な神社である。神社には、多くの祭事があり、市民の信仰の場となっている。

井栗村 井栗村は、長岡市の近郊にある。村には、多くの伝統文化があり、市民の歴史教育の場となっている。井栗村は、長岡市の近郊にある。村には、多くの伝統文化があり、市民の歴史教育の場となっている。

田上の繁樞 田上の繁樞は、長岡市の主要な観光名所である。繁樞には、多くの祭事があり、市民の信仰の場となっている。田上の繁樞は、長岡市の主要な観光名所である。繁樞には、多くの祭事があり、市民の信仰の場となっている。

大面天然ガス 大面天然ガスは、長岡市の主要な資源である。天然ガスは、市民の生活を支える重要な資源である。大面天然ガスは、長岡市の主要な資源である。天然ガスは、市民の生活を支える重要な資源である。

大河津分水 大河津分水は、長岡市の主要な観光名所である。分水は、市民の歴史教育の場となっている。大河津分水は、長岡市の主要な観光名所である。分水は、市民の歴史教育の場となっている。

良寛上人遺跡 良寛上人遺跡は、長岡市の主要な観光名所である。遺跡には、多くの史跡があり、市民の歴史教育の場となっている。良寛上人遺跡は、長岡市の主要な観光名所である。遺跡には、多くの史跡があり、市民の歴史教育の場となっている。

二十村牛の角つき 二十村牛の角つきは、長岡市の主要な観光名所である。角つきは、市民の歴史教育の場となっている。二十村牛の角つきは、長岡市の主要な観光名所である。角つきは、市民の歴史教育の場となっている。

### 名物

鮭 信濃川の鮭は、長岡市の主要な名物である。鮭は、市民の生活を支える重要な資源である。信濃川の鮭は、長岡市の主要な名物である。鮭は、市民の生活を支える重要な資源である。

鮎 鮎は、長岡市の主要な名物である。鮎は、市民の生活を支える重要な資源である。鮎は、長岡市の主要な名物である。鮎は、市民の生活を支える重要な資源である。

せんまい せんまいは、長岡市の主要な名物である。せんまいは、市民の生活を支える重要な資源である。せんまいは、長岡市の主要な名物である。せんまいは、市民の生活を支える重要な資源である。

またよび漬 またよび漬は、長岡市の主要な名物である。またよび漬は、市民の生活を支える重要な資源である。またよび漬は、長岡市の主要な名物である。またよび漬は、市民の生活を支える重要な資源である。

味の旨味漬 味の旨味漬は、長岡市の主要な名物である。味の旨味漬は、市民の生活を支える重要な資源である。味の旨味漬は、長岡市の主要な名物である。味の旨味漬は、市民の生活を支える重要な資源である。

越の雪 越の雪は、長岡市の主要な名物である。越の雪は、市民の生活を支える重要な資源である。越の雪は、長岡市の主要な名物である。越の雪は、市民の生活を支える重要な資源である。

大手饅頭 大手饅頭は、長岡市の主要な名物である。大手饅頭は、市民の生活を支える重要な資源である。大手饅頭は、長岡市の主要な名物である。大手饅頭は、市民の生活を支える重要な資源である。

ヨイラス飴 ヨイラス飴は、長岡市の主要な名物である。ヨイラス飴は、市民の生活を支える重要な資源である。ヨイラス飴は、長岡市の主要な名物である。ヨイラス飴は、市民の生活を支える重要な資源である。

唐木細工 唐木細工は、長岡市の主要な名物である。唐木細工は、市民の生活を支える重要な資源である。唐木細工は、長岡市の主要な名物である。唐木細工は、市民の生活を支える重要な資源である。

スキー スキーは、長岡市の主要な名物である。スキーは、市民の生活を支える重要な資源である。スキーは、長岡市の主要な名物である。スキーは、市民の生活を支える重要な資源である。

木目人形 木目人形は、長岡市の主要な名物である。木目人形は、市民の生活を支える重要な資源である。木目人形は、長岡市の主要な名物である。木目人形は、市民の生活を支える重要な資源である。

縞シルクポリー、變羽二重 縞シルクポリー、變羽二重は、長岡市の主要な名物である。縞シルクポリー、變羽二重は、市民の生活を支える重要な資源である。縞シルクポリー、變羽二重は、長岡市の主要な名物である。縞シルクポリー、變羽二重は、市民の生活を支える重要な資源である。

### 俚語

越後全般に行はる、盆踊りは長岡も中々盛んで其時うたふ長岡其何には下の如きものがある。

お山の千本櫻花は千さなる實は一つ九百九十はそりやむだの花

お山の千本櫻花は千さなる實は一つ九百九十はそりやむだの花

お山の千本櫻花は千さなる實は一つ九百九十はそりやむだの花

お山の千本櫻花は千さなる實は一つ九百九十はそりやむだの花

複製 嚴禁

發行所 長岡市 上越線全通記念博覽會 主備所 上越線全通記念博覽會協賛會

印刷所 新海縣長岡市長町一丁目一六九七 三盛館印刷所

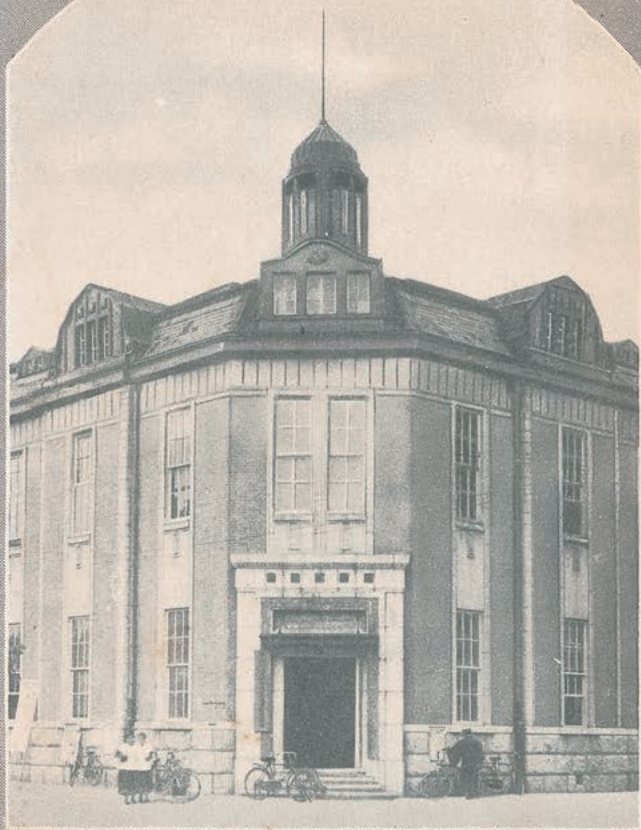
印刷者 新海縣長岡市長町一丁目一六九七 三盛館印刷所

製版所 東京市下谷區二長町一 (特許日B製版凸版印刷株式會社)

昭和六年八月二十一日發行



長岡市役所



表紙

長岡市……長生橋ヲ隔テ、東方ヲ望ム  
 兜……舊長岡城ハ兜形ヲ引城ト稱ス  
 長岡ノ榮……博覽會新作長唄  
 題字 舊藩主子爵牧野忠篤閣下



(園公山久悠)社神柴若



